

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

はなみずき

日付 平成 21年 3月 31日

特定非営利活動法人

**評価機関名**

ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

旭川荘内に、高齢者の福祉と医療の総合サービスの先駆的役割を果たしてきた特別養護老人ホームの併設型として、平成12年に開設され、以来、他のホームのモデル的存在として現在に至っている。近くに旭川からひかれた用水や公園があり、季節に合わせて荘内には鯉のぼりが泳ぐなど一歩ホーム外に目をやると、五感を刺激するには十分な環境にある。地域の住宅とは離れているが、利用者は母体施設の売店に行く楽しみや、児童院の子供との触れ合い、飼い犬とのたわむれも日常の和みになっている。

私たちが訪問して利用者にご挨拶すると、「どこから来られたん？」の連発。答えても「聞いてもすぐに忘れると…」といわれるので、「ええよ、何回でも教えるよ」と答えると場が和んだ。折り紙の好きな利用者は手と口が良く動き、ムードメーカー。もう一人の女性は「朝から豆の筋を取った。これくらいしかできん。」と話す。すかさず「いつもお手伝いをして下さるんよ」という職員の声に、顔がほころんだ。また、「私は、幸せもんじゃ。こんな暖かい部屋へ住まわせてもらって、みんなの世話になって…」「嫁の さんがこの着物も買ってくれたしなァ」と話してくれる利用者のしみじみした話に、このホームの全容が浮き彫りになっているように感じた。

管理者は、建物が狭い不便さはあるが、その分一人ひとりに目が行き届き、日常の表情の変化や個々の思いがつかみやすく、個別対応がしやすいと話していた。利用定員6名という小単位のホーム特性の良さが、ここでは随所に感じられる。トイレ誘導などの支援でも、本人のプライバシーやプライドを損なわないよう、耳元でそっと声かけして誘導が自然に行われている。

このホームでは一日の暮らしの流れは持っているが、特別に決めたメニューはない。「お風呂より先に散歩の方がええわ」と希望があれば散歩に出かける。一人ひとりのその日の望みを大切にしたい支援をおこなっている。

この法人は介護職員養成機関も持っており、その学生達の研修の場としての機能もあって、利用者が若者と接する貴重な機会にも恵まれているようだ。開設9年目の経験を経て、安定したケアの様子が伝わってくる。

今後は、ターミナルケアへの対応など、グループホームのあり方のモデルを作ってゆくことが、このホームの使命となると感じている。

特に改善の余地があると思われる点

やや食事のマナー化が課題になっているのも知れない。外食イベントも加味して生活の幅をひろげてほしいもの。また、体調を崩しやすい利用者の外出機会がやや低調なのではという印象がある。気分転換やストレスの発散、五感の刺激の必要性を考えて、体調にあった外出の工夫を検討してほしいと感じた。安定したホームであるだけに、一層の飛躍を目指して「日常性の打破」といふ発想の転換を期待したい。

## 2. 評価結果 (詳細)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に改善項目はない</p> <p>2、全体的に見て…：安心と潤い、心地よさを提供する理念を追求する姿勢が伝わってくる。何事も強制せず、平等を旨としている。小規模の特性を活かし、一人ひとりの思いを十分汲み取り、きめ細かい対応を心掛けている。「お風呂の入りより散歩の方がよい」の声が上がれば、存分に散歩を楽しませてあげようとしている。画一的なサービスにならないよう、狭いながらも、利用者と職員の関係、利用者同士の関係がより密接につながったホーム作りを目指し、職員が一体となって頑張っている。人生の先輩として、尊敬の念を持って利用者に向き合う姿勢が職員の共通の思いとして備わってきている事がうれしい。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に改善項目はない</p> <p>2、全体的に見て…：このホームは普通の一般家庭のような構造である。リビングの食卓に並列して台所があり、カウンターがないので、職員は調理しながらいるような動きが可能だ。利用者は食卓越しに調理のにおいを嗅ぎ、日常的な会話を交わしながらの生活で、まさに普通の家庭の生活そのものである。日中の多くは、決まった食卓の場所が居心地の良い自分の居場所になっている方が多いようだ。入り口がオープンにされている居室もあるが、互いがオープンな関係になっている間柄のようにもなっていることもあるようだ。グループホームの原点である小規模のよさを教えられる、居心地のよいホームである。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に改善項目はない</p> <p>2、全体的に見て…：本人の過去仕事や家族構成などの生活歴を踏まえて、利用者の最も輝いていた時期をとらえ、それを評価し尊厳を持った人として対応している。役割の就いても家族から細部にわたりヒアリングを行い、負担にならない程度に意思を尊重して、出来ることをやらせようとしている。何よりも、強制するのではなく利用者に選択肢を与えて自主性を引き出そうとしている点がこのホームのすばらしさであろう。</p> <p>利用者の部屋にはロックをして入る。トイレ使用中は静かに外で待つ。また、苦情や悩み事の相談は、居室で十分時間をかけて納得するまで傾聴するなど、そういう姿勢が職員間に徹底されている。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に改善点項目はない。</p> <p>2、全体的に見て…：何事も強制的、画一的なサービスにならないよう、個別に一日を楽しんでもらえるよう職員が意識を共有している。「洗濯物が出来とるけど、部屋の持ってゆけるかなあ、どうする…？」など、選択肢の問いかけの中から返事を待つ姿勢がいたるところに見えた。</p> <p>他の利用者のことが気になる利用者が時々不穏に陥り、隣の人の口論が始まる。体調が優れず引き起こす行動だと判断すると、早めに休んでもらったり、居室に誘い十分傾聴してあげるなど、内面に抱えている思いを十分引き出す配慮を行っている。小規模ならではの見通しのよい早期発見、大事に至らない早目の対応を職員が共通した意識を持っている。</p>		